



都市医師会 だより

渡島医師会主催「文化講演会」について

渡島医師会 副会長 宮村 拓郎

渡島医師会主催の第4回文化講演会が、10月25日ホテル函館ロイヤルにて約90名の参加者を集め開催された。この文化講演会は、当会員を支えてくれている家族、職員、他医師会の関係者の方々の慰労と懇親を目的とした文化的な内容の講演会と懇親会で、平成19年から1年おきに行われている。過去3回の内容は、田崎真也氏による「食とワインの話」、札幌交響楽団団員による「弦楽四重奏+オーボエの五重奏の演奏会」、そして三遊亭小朝氏とその仲間による「落語と演芸の夕べ」であったが、今回は俳優で食通、ワイン通として知られている辰巳琢郎氏を講師として迎え、「道草のすすめ」という講演の後、ワインを楽しみながら懇親を深めるという企画であった。当会の小笠原会長から、この文化講演会が行われるようになった経緯やその目的、さらに渡島医師会の活動状況などの報告の後、辰巳氏の登場により講演会が始まった。

講演の内容は多岐にわたっていたが、まず、函館とのかかわり合いでは、最初に函館を訪れたのは、大阪で通学していた高校の修学旅行の時であり、大沼公園での記念撮影の写真が残っていること、函館では10年前から行われている「バル街」というイベ

ント（街を歩き景観を楽しみながら、70店あまりの参加店の中で自分好みの店を選んで1口か2口で食べられるおつまみであるピンチョスとドリンクを味わう）があるが、その企画をしたスペイン料理で有名な深谷シェフとの親交があること、TVドラマの撮影などで来函は10度目にもなるなどと話してくれた。

また、日本産のぶどうだけで作られたワインの振興を目的とした会である「日本ワインを愛する会（日本のワインを楽しむ会）」の副会長を務めていること、道南でのワイン醸造に関しては、各醸造所の特徴を的確なコメントでまとめ、さらに、自身のTV番組ではリフォームに関する長寿番組をもっていること、自分で企画している海外ツアーの話では、1929年から2003年まで存在したユーゴスラビア連邦人民共和国を構成していた、スロベニア、クロアチアなどの6カ国を巡った感想、音楽に関しては、バルカン室内管弦楽団（民族、宗教、文化の違いにより各国が複雑な関係を保っているバルカン半島の民族共栄を目的として戦地で生まれた奇跡の管弦楽団）の音楽監督として、旧ユーゴを中心に国内外で活躍を続ける指揮者の柳澤寿男を応援する会の名誉会員であることなど、ワインから文化、歴史、趣味の話まで多岐にわたる道草話を、楽しく親しみやすく語りわれわれを楽しませてくれた。

ちょうど、プロ野球のドラフト会議後であり、京大出身のプロ野球選手が誕生することについての京大OBとしての感想を聞かれたり、俳優業としては医師役の役作りの苦労話、ワイン通として、道南ワインの評価は？などの質問があったが、これらにも気さくに丁寧に答えてもらった。

懇親会は、光銭副会長の辰巳氏への謝辞と乾杯の発声に引き続き、辰巳氏がプロデュースしたスパークリングワイン（ロゼ）と白赤のワイン（すべて日本のもの）4種の解説を聞きながら、和やかな雰囲気の中、ワインと料理を存分に楽しんだ。

最後に平田常任理事の乾杯と閉会の挨拶で懇親会がお開きとなったが、参加者全員の満足げな様子を見る限り、文化講演会が成功し医師会の活動としても意義のあるものであったと感じられた。



講師の辰巳琢郎氏



懇親会